



平成29年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成28年11月9日

上場取引所 東

上場会社名 丸大食品株式会社

コード番号 2288 URL <http://www.marudai.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 百済 徳男

問合せ先責任者 (役職名) 取締役経理部長 (氏名) 加藤 伸佳

TEL 072-661-2518

四半期報告書提出予定日 平成28年11月14日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 機関投資家・アナリスト向け

(百万円未満切捨て)

1. 平成29年3月期第2四半期の連結業績(平成28年4月1日～平成28年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年3月期第2四半期	115,774	△0.2	2,755	28.9	3,025	28.5	1,871	32.3
28年3月期第2四半期	115,971	4.7	2,137	12.8	2,353	11.2	1,415	54.5

(注) 包括利益 29年3月期第2四半期 2,011百万円 (8.5%) 28年3月期第2四半期 1,853百万円 (30.3%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
29年3月期第2四半期	14.24	—
28年3月期第2四半期	10.70	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
29年3月期第2四半期	127,784	73,417	57.1	555.46
28年3月期	124,522	72,322	57.8	547.31

(参考) 自己資本 29年3月期第2四半期 72,996百万円 28年3月期 71,926百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
28年3月期	—	—	—	7.00	7.00
29年3月期	—	—	—	7.00	7.00
29年3月期(予想)	—	—	—	7.00	7.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成29年3月期の連結業績予想(平成28年4月1日～平成29年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	230,000	0.2	4,400	5.5	4,750	4.5	2,900	10.8	22.07

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

29年3月期2Q	132,527,909 株	28年3月期	132,527,909 株
----------	---------------	--------	---------------

② 期末自己株式数

29年3月期2Q	1,113,069 株	28年3月期	1,110,489 株
----------	-------------	--------	-------------

③ 期中平均株式数(四半期累計)

29年3月期2Q	131,416,290 株	28年3月期2Q	132,290,860 株
----------	---------------	----------	---------------

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績の見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料5ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	5
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	5
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	5
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	5
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	5
(4) 追加情報	5
3. 四半期連結財務諸表	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	10
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	11
(継続企業の前提に関する注記)	11
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	11
(セグメント情報等)	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、個人消費は力強さに欠けるものの、雇用・所得環境の改善などから景気は緩やかな回復基調が続きましたが、海外経済の不透明感の高まりや為替相場・株式市場の変動による影響が懸念されるなど、景気の先行きは予断を許さない状況で推移しました。

加工食品事業につきましては、原材料価格は安定しているものの、消費者の節約志向を背景とした販売競争が一層激しさを増すなど、厳しい環境が続いております。また、食肉事業につきましては、米国産牛肉の相場は出荷頭数の増加から安定して推移しているものの、国産牛肉は出荷頭数の減少から引き続き高値を維持した相場となっております。豚肉は、米国産豚肉の出荷頭数の増加が続いていることから相場は弱含みの展開を始めており、国産豚肉も出荷頭数の回復傾向から、相場は落ち着きを取り戻しつつあります。

このような状況のなか、当社グループは、お客様に、より安全でより安心して召し上がっていただける食品を提供する総合食品メーカーとして、真に社会的存在価値が認められる企業を目指し、「基盤事業の強化」「多角化戦略の推進」「ローコスト経営の促進」などの基本方針を軸に企業活動を推進してまいりました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間における売上高は前年同期比0.2%減の1,157億74百万円、営業利益は同28.9%増の27億55百万円、経常利益は同28.5%増の30億25百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益は同32.3%増の18億71百万円となりました。

セグメント別の業績の概況は、次のとおりであります。

【セグメント別業績】

(単位：百万円)

	売上高 (注1)			セグメント利益		
	前第2四半期 連結累計期間	当第2四半期 連結累計期間	増減額 (増減率)	前第2四半期 連結累計期間	当第2四半期 連結累計期間	増減額 (増減率)
加工食品事業	82,154	82,292	137 (0.2%)	2,042	1,790	△252 (△12.3%)
食肉事業	33,601	33,402	△198 (△0.6%)	13	871	857 (注2)(-)
その他	215	79	△136 (△63.2%)	81	93	12 (15.6%)
合計	115,971	115,774	△197 (△0.2%)	2,137	2,755	617 (28.9%)

(注1) 売上高には、セグメント間の内部売上高は含まれておりません。

(注2) 食肉事業のセグメント利益の増減率は、1,000%以上のため(-)で表示しております。

【加工食品事業 売上高内訳】

(単位：百万円)

	売上高		
	前第2四半期 連結累計期間	当第2四半期 連結累計期間	増減額 (増減率)
ハム・ソーセージ	44,799	43,383	△1,415 (△3.2%)
調理加工食品	37,355	38,908	1,552 (4.2%)

① 加工食品事業

ハム・ソーセージ部門では、平成28年4月にリニューアル発売した「燻製屋熟成あらびきウインナー」などの主力商品を中心に、「夏のニッポン! 全力応援! キャンペーン」の販売促進などを実施し積極的な売上拡大に努めました。また、ご好評をいただいております「燻(いぶし) 特級ベーコン」「炙(あぶり) ばら焼豚」「旨(うまみ) ホワイトももハム」が堅調に推移したほか、北海道岩見沢で製造した「岩見沢 生ハム」シリーズなどの新商品を投入し拡販を図りました。中元ギフトにつきましては、モンドセレクション食品部門において最高金賞を受賞した商品を中心に詰め合わせた「王覇」「煌彩」シリーズなどの売上拡大に努めました。これらの施策を行いました。お客様の節約志向や競合他社との販売競争激化などにより、当部門の売上高は前年同期比3.2%の減収となりました。

調理加工食品部門では、「ビストロ倶楽部 ビーフカレー」シリーズを中心としたレトルトカレー商品が堅調に推移しました。また、九州産の柚子こしょうを使用した「柚子こしょうチキン」などの新商品を投入し、チキン惣菜の売上拡大を図りました。デザート・飲料類につきましては、主力商品の「SWEET CAFE」シリーズが堅調に推移したほか、「TAPIOCA TIME」シリーズはブラックタピオカを120%に増量するキャンペーンを実施するなど引き続き好調に推移しました。以上のことから、当部門の売上高は前年同期比4.2%の増収となりました。

以上の結果、当セグメントの売上高は前年同期比0.2%増の822億92百万円となりました。営業利益は、原材料価格・エネルギーコストの低下や合理化によるコスト削減に努めましたが、主力のハム・ソーセージ部門の売上高減少などから前年同期比12.3%減の17億90百万円となりました。

② 食肉事業

牛肉につきましては、国産牛肉の相場が高値で推移するなか、国産牛肉や輸入冷凍牛肉などの売上高は低調に推移しましたが、米国産チルド牛肉の売上拡大に努めました。豚肉につきましては、相場が落ち着きを取り戻しつつある国産豚肉は、販売数量が拡大する一方で売上高は前年を下回りましたが、輸入チルド豚肉の拡販を図り豚肉全体の売上高の確保に努めました。また、鶏肉につきましては、輸入鶏肉相場の下落により売上高は低調に推移しました。

以上の結果、当セグメントの売上高は前年同期比0.6%減の334億2百万円となりました。営業利益は、前期に相場が大幅に下落した輸入冷凍牛肉の収益改善や、比較的収益性の高い輸入牛肉及び輸入豚肉などを中心に積極的に拡販したことにより前年同期を大きく上回り、8億71百万円となりました。

③ その他事業

その他事業の売上高は前年同期比63.2%減の79百万円、営業利益は前年同期比15.6%増の93百万円となりました。

(2) 財政状態に関する説明

〔連結財政状態〕

(単位：百万円)

	前連結会計年度末	当第2四半期 連結会計期間末	増減額
総資産	124,522	127,784	3,262
負債	52,199	54,367	2,167
純資産	72,322	73,417	1,094
自己資本比率	57.8%	57.1%	△0.7%

当第2四半期連結会計期間末における総資産は、たな卸資産が21億76百万円、有形固定資産が31億91百万円増加したことなどから、前連結会計年度末に比べ32億62百万円増加し、1,277億84百万円となりました。

負債は、借入金12億44百万円減少しましたが、支払手形及び買掛金が24億22百万円、リース債務が11億71百万円増加したことなどから、前連結会計年度末に比べ21億67百万円増加し、543億67百万円となりました。

純資産は、剰余金9億19百万円の配当がありましたが、親会社株主に帰属する四半期純利益18億71百万円を計上したことなどから、前連結会計年度末に比べ10億94百万円増加し、734億17百万円となりました。

以上の結果、自己資本比率は、前連結会計年度末から0.7%低下し、57.1%となりました。

〔連結キャッシュ・フローの状況〕

(単位：百万円)

	前第2四半期 連結累計期間	当第2四半期 連結累計期間	増減額
営業活動によるキャッシュ・フロー	6,994	3,795	△3,198
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,041	△3,749	△2,707
財務活動によるキャッシュ・フロー	△5,903	△2,622	3,280
現金及び現金同等物の増減額	49	△2,576	△2,625
現金及び現金同等物の四半期末残高	13,971	14,424	452

営業活動によるキャッシュ・フローは、たな卸資産の増加などによる減少要因がありましたが、税金等調整前四半期純利益の計上などから、37億95百万円増加しました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、生産設備の増強・合理化や品質向上のための固定資産の取得による支出などから、37億49百万円減少しました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、有利子負債の返済や配当金の支払いなどから、26億22百万円減少しました。

以上の結果、当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物残高は、前連結会計年度末から25億76百万円減少し、144億24百万円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成29年3月期第2四半期連結累計期間においては、主力のハム・ソーセージ部門や食肉事業の売上高が低調に推移しました。これらの状況を勘案し、あらためて今後の業績見通しを検討した結果、平成28年5月12日に公表しました平成29年3月期通期の連結業績予想について以下のとおり修正いたします。

[平成29年3月期の通期連結業績予想の修正 (平成28年4月1日～平成29年3月31日)]

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
前回発表予想(A)	236,000	4,400	4,750	2,900	22.07
今回修正予想(B)	230,000	4,400	4,750	2,900	22.07
増減額(B-A)	△6,000	—	—	—	—
増減率(%)	△2.5	—	—	—	—
(ご参考)前期実績 (平成28年3月期)	229,543	4,168	4,543	2,617	19.85

※上記の予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績等は様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

(会計方針の変更)

法人税法の改正に伴い、「平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱い」(実務対応報告第32号 平成28年6月17日)を第1四半期連結会計期間から適用し、平成28年4月1日以後に取得した建物附属設備及び構築物に係る減価償却方法を定率法から定額法に変更しております。

この結果、当第2四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益はそれぞれ25百万円増加しております。

(4) 追加情報

(繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)を第1四半期連結会計期間から適用しております。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成28年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	17,001	14,424
受取手形及び売掛金	24,639	25,895
商品及び製品	7,713	9,171
仕掛品	431	524
原材料及び貯蔵品	6,073	6,698
繰延税金資産	945	1,020
その他	1,936	1,086
貸倒引当金	△38	△38
流動資産合計	58,701	58,784
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	47,972	49,191
減価償却累計額	△33,785	△34,392
建物及び構築物(純額)	14,186	14,799
機械装置及び運搬具	51,003	52,134
減価償却累計額	△41,002	△41,894
機械装置及び運搬具(純額)	10,001	10,240
工具、器具及び備品	4,416	4,410
減価償却累計額	△2,805	△2,795
工具、器具及び備品(純額)	1,611	1,614
土地	17,926	19,055
リース資産	6,891	8,072
減価償却累計額	△3,385	△3,393
リース資産(純額)	3,505	4,679
建設仮勘定	824	857
有形固定資産合計	48,056	51,247
無形固定資産	737	1,115
投資その他の資産		
投資有価証券	11,893	11,724
長期貸付金	111	91
繰延税金資産	131	135
その他	5,136	4,905
貸倒引当金	△245	△220
投資その他の資産合計	17,026	16,636
固定資産合計	65,820	69,000
資産合計	124,522	127,784

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成28年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	21,859	24,281
短期借入金	5,399	5,064
1年内返済予定の長期借入金	2,745	2,640
リース債務	819	917
未払金	7,196	7,636
未払法人税等	751	997
未払消費税等	1,205	253
賞与引当金	973	1,138
その他	1,512	1,739
流動負債合計	42,462	44,669
固定負債		
長期借入金	2,848	2,043
リース債務	2,784	3,858
繰延税金負債	1,008	1,041
退職給付に係る負債	2,515	2,322
その他	580	432
固定負債合計	9,737	9,697
負債合計	52,199	54,367
純資産の部		
株主資本		
資本金	6,716	6,716
資本剰余金	22,086	22,086
利益剰余金	41,304	42,265
自己株式	△511	△512
株主資本合計	69,596	70,555
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	4,423	4,291
繰延ヘッジ損益	△21	△26
為替換算調整勘定	△4	46
退職給付に係る調整累計額	△2,066	△1,871
その他の包括利益累計額合計	2,330	2,440
非支配株主持分	396	421
純資産合計	72,322	73,417
負債純資産合計	124,522	127,784

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)
売上高	115,971	115,774
売上原価	89,639	88,268
売上総利益	26,331	27,505
販売費及び一般管理費	24,194	24,750
営業利益	2,137	2,755
営業外収益		
受取利息	10	11
受取配当金	146	158
不動産賃貸料	111	107
その他	185	195
営業外収益合計	453	473
営業外費用		
支払利息	111	103
その他	125	99
営業外費用合計	236	202
経常利益	2,353	3,025
特別利益		
固定資産処分益	101	24
投資有価証券売却益	—	3
特別利益合計	101	28
特別損失		
固定資産処分損	27	157
減損損失	26	24
特別損失合計	54	181
税金等調整前四半期純利益	2,400	2,872
法人税、住民税及び事業税	1,031	1,045
法人税等調整額	△65	△74
法人税等合計	965	971
四半期純利益	1,434	1,900
非支配株主に帰属する四半期純利益	19	29
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,415	1,871

四半期連結包括利益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)
四半期純利益	1,434	1,900
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	244	△131
繰延ヘッジ損益	△9	△5
為替換算調整勘定	1	41
退職給付に係る調整額	181	195
持分法適用会社に対する持分相当額	0	9
その他の包括利益合計	419	110
四半期包括利益	1,853	2,011
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,834	1,982
非支配株主に係る四半期包括利益	19	29

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	2,400	2,872
減価償却費	2,512	2,567
減損損失	26	24
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△43	△25
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	75	79
受取利息及び受取配当金	△156	△170
支払利息	111	103
投資有価証券売却損益 (△は益)	—	△3
固定資産処分損益 (△は益)	△73	132
売上債権の増減額 (△は増加)	△1,750	△1,242
たな卸資産の増減額 (△は増加)	2,553	△2,176
仕入債務の増減額 (△は減少)	1,649	2,422
未払消費税等の増減額 (△は減少)	△104	△952
その他	425	705
小計	7,626	4,337
利息及び配当金の受取額	159	178
利息の支払額	△110	△103
法人税等の支払額	△681	△616
営業活動によるキャッシュ・フロー	6,994	3,795
投資活動によるキャッシュ・フロー		
投資有価証券の取得による支出	△15	△15
投資有価証券の売却による収入	—	9
固定資産の取得による支出	△1,255	△3,814
固定資産の売却による収入	277	186
その他	△48	△115
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,041	△3,749
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△3,011	△335
長期借入金の返済による支出	△1,059	△909
リース債務の返済による支出	△390	△451
配当金の支払額	△927	△919
自己株式の取得による支出	△500	△1
その他	△14	△5
財務活動によるキャッシュ・フロー	△5,903	△2,622
現金及び現金同等物に係る換算差額	0	—
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	49	△2,576
現金及び現金同等物の期首残高	13,922	17,001
現金及び現金同等物の四半期末残高	13,971	14,424

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

前第2四半期連結累計期間(自平成27年4月1日至平成27年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	加工食品 事業	食肉事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	82,154	33,601	115,755	215	115,971	—	115,971
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	513	513	△513	—
計	82,154	33,601	115,755	729	116,485	△513	115,971
セグメント利益	2,042	13	2,056	81	2,137	—	2,137

(注)1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、保険代行業等を含んでおります。

2 報告セグメントの利益計とその他事業セグメントの利益の合計は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

各セグメントに帰属しない賃貸等不動産について、回収可能価額の低下に伴う減損損失の計上額は、当第2四半期連結累計期間においては26百万円であります。

当第2四半期連結累計期間(自平成28年4月1日至平成28年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	加工食品 事業	食肉事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	82,292	33,402	115,694	79	115,774	—	115,774
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	452	452	△452	—
計	82,292	33,402	115,694	531	116,226	△452	115,774
セグメント利益	1,790	871	2,661	93	2,755	—	2,755

(注)1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、保険代行業等を含んでおります。

2 報告セグメントの利益計とその他事業セグメントの利益の合計は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項 (3)会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示(会計方針の変更)」に記載のとおり、法人税法の改正に伴い、平成28年4月1日以後に取得した建物附属設備及び構築物に係る減価償却方法を定率法から定額法に変更したため、事業セグメントの減価償却の方法を同様に変更しております。

当該変更により、従来の方法に比べて、当第2四半期連結累計期間の「加工食品事業」のセグメント利益が25百万円増加し、「食肉事業」のセグメント利益が0百万円増加しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

各セグメントに帰属しない賃貸等不動産について、回収可能価額の低下に伴う減損損失の計上額は、当第2四半期連結累計期間においては24百万円であります。